

2018年のロボット関連株市況

～ロボット需要拡大が続く中、2018年も良好な投資環境が続く見通し～

2018年1月5日

※当資料は、アクサ・インベストメント・マネージャーズが提供するコメントを基に大和投資信託が作成したものです。

お伝えしたいポイント

- ・ 2017年のロボット関連企業は、世界の株式市場と比較して良好なパフォーマンス
- ・ 今後の見通しと運用方針について

＜基準価額・純資産の推移＞

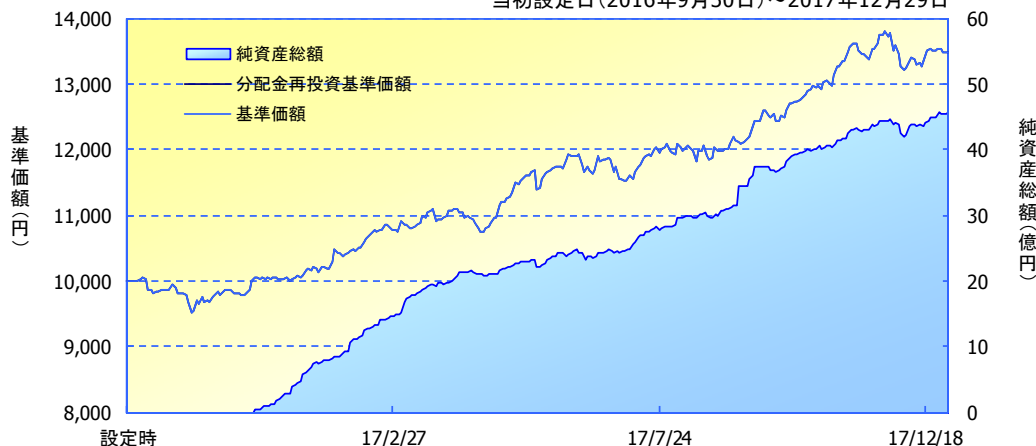
※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

2017年12月29日現在

基準価額	13,467 円
純資産総額	46億円

期間別騰落率

期間	ファンド
1カ月間	-2.2 %
3カ月間	+7.8 %
6カ月間	+14.7 %
1年間	+34.7 %
3年間	----
5年間	----
年初来	+34.5 %
設定来	+34.7 %



※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。

※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応当日までとし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しています。

※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

＜分配の推移＞

(1万口当たり、税引前)

決算期(年/月)	分配金
第1期 (17/09)	0円
分配金合計額	設定来: 0円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものです。■当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。■投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。■当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。■分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒ 大和投資信託 フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

2017年の振り返り

世界的なロボット需要拡大に伴う好業績等を受けて大幅に上昇

グローバル株式市況は、北朝鮮情勢の緊迫化による地政学リスクの高まりや米国トランプ政権の政策実行力への先行き不透明感、欧州の政治不安などが嫌気され、一時的に下落する局面もありましたが、世界的な景気回復が続中、フランス大統領選挙の結果を受けた政治リスクの後退や米国の利上げペースが緩やかなものになるとの見方が広がったこと、米国を中心とした堅調な経済指標や企業業績、米国の税制改革の進展期待などから、上昇基調となりました。

ロボット関連企業についても、世界的なロボット需要拡大に伴う堅調な業績動向等を受けて良好なパフォーマンスとなりました。ロボット関連企業は、年初来では企業業績が好調であった米国を中心に上昇しましたが、夏以降は中国のロボット需要の増加等を受けて日本のロボット関連企業の株価も大きく上昇しました。

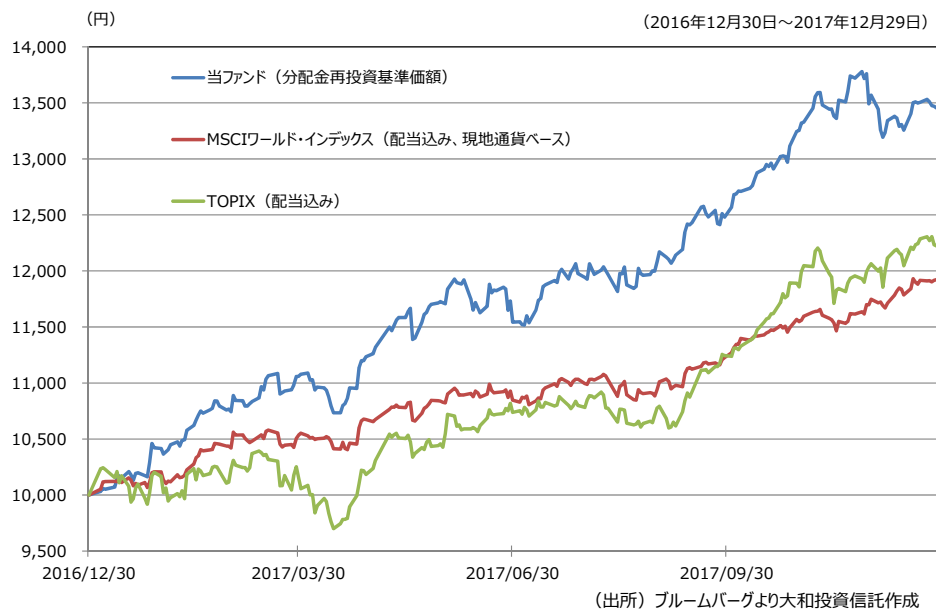
運用状況

当ファンドは日本や世界の株式指数を大きく上回るパフォーマンス

当ファンドでは、引き続き、ロボット関連産業、製造業・運輸・ヘルスケアなどの分野で自動化を行う企業、これらの企業の技術を下支えする半導体やソフトウェア企業などの銘柄に投資しました。企業規模の面ではキーエンスやシーメンスのような大型株からナブテスコやデュールなどの中小型株にも幅広く投資しました。地域別ではロボット関連産業の技術革新において先進的な地域である米国、日本を中心に投資しました。

年初来では、米国と日本の保有銘柄、特に情報技術や資本財・サービスセクターの株価上昇などがプラスに働き、基準価額は大幅に上昇しました。個別銘柄では、米国のテクノロジー企業のコグネックス、日本のロボット製造大手の安川電機やキーエンスなどが良好なパフォーマンスとなりました。また、年後半には株価が大幅に上昇した銘柄を一部売却し、新たに農業関連銘柄や割安となった半導体銘柄などを買い付けました。

このような環境のもと、当ファンドは日本や世界の株価指数を大きく上回るパフォーマンスとなっています。



※上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。

※MSCIワールド・インデックスおよびTOPIXはグラフの起点時を10,000として指数化しています。

※TOPIXの指数値及びTOPIXの商標は、株式会社東京証券取引所(以下「(株)東京証券取引所」という。)の知的財産であり、株価指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利、ノウハウ及びTOPIXの商標に関するすべての権利は(株)東京証券取引所が有します。(株)東京証券取引所は、TOPIXの指数値の算出若しくは公表の方法の変更、TOPIXの指数値の算出若しくは公表の停止又はTOPIXの商標の変更若しくは使用の停止を行うことができます。

※MSCIワールド・インデックスはMSCI Inc.が開発した指数です。MSCI公表データに関する著作権、知的財産権、その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

今後の見通しと運用方針 — 強気な見方を維持し、成長期待の高いロボット関連企業を选好 —

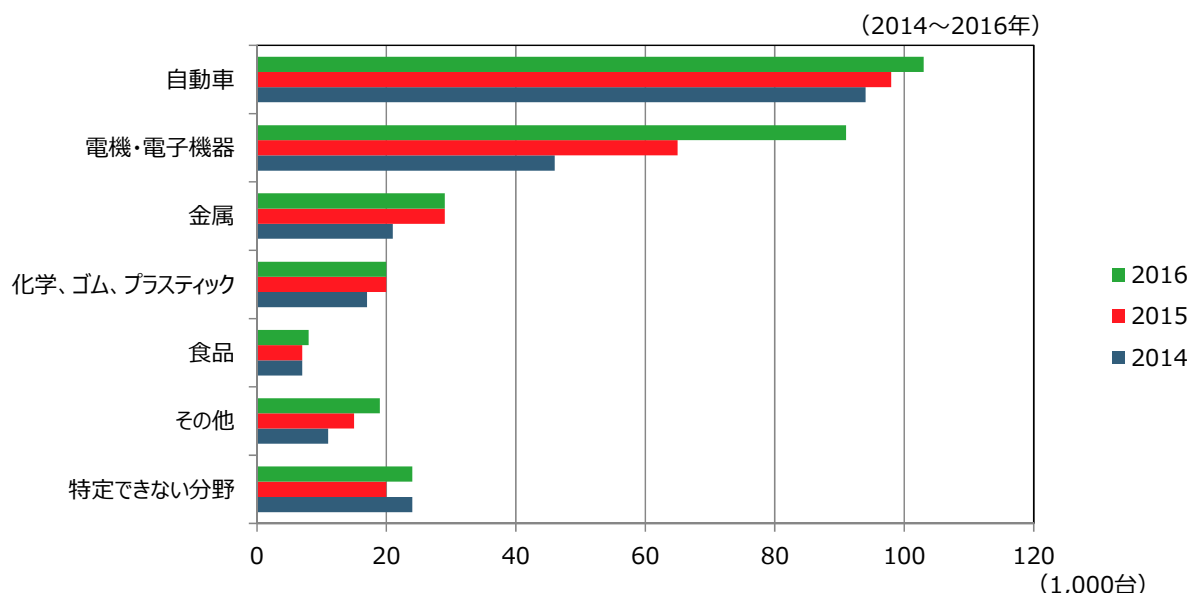
ロボット関連企業の成長性は、長期的な社会構造の変化のなかで達成されていくものであり、方向性について特段見通しが変わることはありません。

ただし、2017年のロボット関連企業の株価がスマートフォン端末や家庭用電化製品メーカーからの強い設備投資需要など一部の特殊な要因で上昇したことは確認しています。特にアップルのiPhone端末に対する需要に対応するため、部品供給企業の設備投資意欲が高まり、産業用ロボットの受注が好調でした。これについては2018年も同様の期待をするのは難しいと考えています。一方で、自動車メーカー各社が電気自動車の生産を大きく進めることを発表しており、新たな設備投資需要が高まると予想しています。

また、ロボット利用の拡大などを含めた製造業の高度化を推進している中国では2018年以降も旺盛なロボット需要が続くと予想しており、産業用ロボット関連は引き続き強気です。

自動車メーカー等を中心に自動運転車の実現に向けた取り組みが進む中、完全自動車向け運転補助技術に関する需要が底堅く推移していることに加え、ヘルスケア分野は構造的な成長が見込まれることなどから、ロボット需要に対して2018年も引き続き総じて強気な見方を維持しています。

業種別産業用ロボット供給台数



(出所:「IFR World Robot 2017」のデータをもとに、アクサ・インベストメント・マネージャーズ作成)

ポートフォリオについては、上昇が大きい銘柄については一部組入比率を引き下げ、割安な銘柄にシフトするなどして、継続的な信託財産の上昇を目指しております。

ロボット関連企業の株価バリュエーションについて割高との見方も出てきていますが、これらの企業については新たな注目技術分野のなかでも収益化が進み、企業収益とその期待がバランスしていると考えています。また、その利益成長が他の分野に比べて大きく加速していることから、株価バリュエーションが割高であるとは考えておりません。今後、欧米の金融政策や地政学リスクについては十分注意していく必要がありますが、長期的にロボット革命が進展していくことで、ロボット関連企業の高い利益成長が続くと考えています。また、株式市場の上昇基調が続く場合、利益確定売り圧力に伴い下落する局面も見込まれますが、ロボット革命のトレンドのなかでは一時的なものになると考えています。大幅な法人減税等を含む税制改革法が成立したことで、米国における設備投資意欲が高まり、ロボット関連企業もその恩恵を享受することが期待されます。

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、市場の様々なロボット関連産業の企業に投資を行います。

「作る」では、ロボット産業におけるリーディング・カンパニーに加え、製造工程を監視制御するシステムを開発する企業、「運ぶ」では、自動運転技術向けの自動車部品企業、「助ける・守る」では、ロボット外科手術などを手掛ける企業等に注目しています。

変動が大きな相場展開においては、長期的な視点で企業を分析し、市場心理に影響されないことが重要です。また、このような相場局面は、割安な銘柄を見つける好機と考えます。規律のある投資手法を継続し、成長が期待されるロボット関連産業の銘柄へ投資していくことで、中長期的には魅力的なリターン獲得が期待されます。

引き続き、成長期待の高いロボット関連産業の企業に投資を行うことでファンドの成長をめざしてまいります。

以上

ロボット・テクノロジー関連株ファンド(年1回決算型) ーロボテック(年1回)ー(為替ヘッジあり)

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

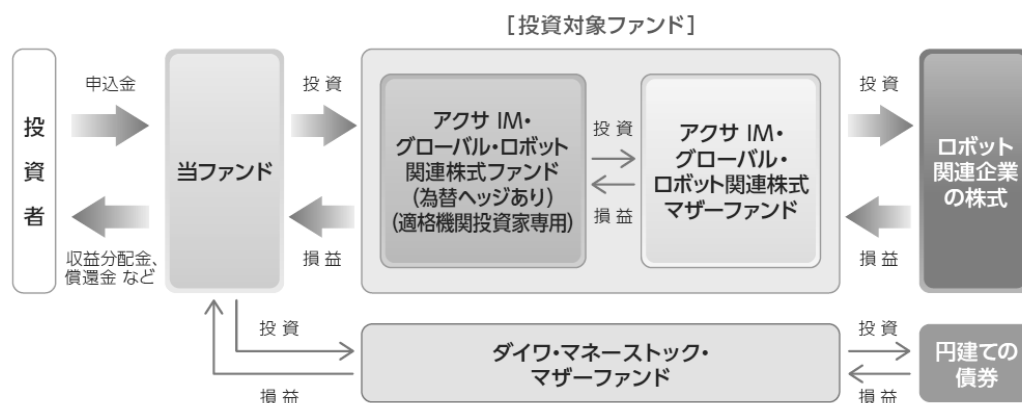
ファンドの目的・特色

ファンドの目的

日本を含む世界のロボット関連企業の株式に投資し、値上がり益を追求することにより、信託財産の成長をめざします。

ファンドの特色

1. 日本を含む世界のロボット関連企業の株式に投資します。
※株式…DR(預託証券)を含みます。
※当ファンドにおけるロボット関連企業とは、ロボット・テクノロジーの開発や製造などにより、ビジネスを展開する企業を指します。
2. 株式の運用は、アクサ・インベストメント・マネージャーズが担当します。
3. 当ファンドは、以下の2本の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。
投資対象とする投資信託証券への投資を通じて、ロボット関連企業の株式に投資します。



投資対象ファンドについて

- ◆アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド(為替ヘッジあり)(適格機関投資家専用)(以下「ロボット関連株式ファンド」といいます。)は、アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社が設定・運用を行います。
- ◆株式の運用の指図に関する権限を、アクサ・インベストメント・マネージャーズ UK リミテッドに委託します。
※アクサ・インベストメント・マネージャーズ UK リミテッドは、アクサ・インベストメント・マネージャーズのロンドン拠点です。

◆「ロボット関連株式ファンド」への投資割合を、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。

◆「ロボット関連株式ファンド」は、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行いません。

※為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。

※為替ヘッジを行なう際、日本円の金利が組入資産の通貨の金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。

(注)一部の通貨について、為替ヘッジが困難、あるいは、ヘッジコストが過大と判断される際には、為替ヘッジを行なわないまたは他の通貨で代替した為替取引を行なう場合があります。

※くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

ロボット・テクノロジー関連株ファンド(年1回決算型) —ロボテック(年1回)—(為替ヘッジあり)

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

投資リスク

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

「株価の変動(価格変動リスク・信用リスク)」、「特定の業種への集中投資リスク」、「為替変動リスク」、「カントリー・リスク」、「その他(解約申込みに伴うリスク等)」

※新興国には先進国とは異なる新興国市場のリスクなどがあります。

※為替変動リスクの低減を図ります。ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。一部の通貨について、為替ヘッジが困難、あるいは、ヘッジコストが過大と判断される際には、為替ヘッジを行わないまたは他の通貨で代替した為替取引を行なう場合があるため、為替変動の影響を受けることがあります。なお、為替ヘッジを行なう際、日本円の金利が組入資産の通貨の金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「投資リスク」をご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 <上限>3.24%(税抜3.0%)	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用 (信託報酬)	年率 1.215% (税抜 1.125%)	運用管理費用の総額は、毎日、信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。
投資対象とする 投資信託証券	年率 0.567% (税抜 0.525%)	投資対象ファンドにおける運用管理費用等です。
実質的に負担する 運用管理費用	年率 1.782% (税込) 程度	
その他の費用・ 手数料	(注)	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

(注)「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせください。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「手続・手数料等」をご覧ください。

設定・運用：

大和投資信託

Daiwa Asset Management

商号等

大和証券投資信託委託株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号

加入協会

一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ロボット・テクノロジー関連株ファンド（年1回決算型）－ロボテック（年1回）－（為替ヘッジあり） 取扱い販売会社

販売会社名（業態別、50音順） （金融商品取引業者名）		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商 品取引業協会
株式会社近畿大阪銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第7号	○			
株式会社埼玉りそな銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第593号	○	○		
株式会社仙台銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第16号	○			
株式会社りそな銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第3号	○	○		
七十七証券株式会社	金融商品取引業者	東北財務局長(金商)第37号	○			
大和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第108号	○	○	○	○
西日本シティIT証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長(金商)第75号	○			
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	

上記の販売会社については今後変更となる場合があります。また、新規のご購入の取り扱いを行っていない場合がありますので、各販売会社にご確認ください。